

# 中国思想中国哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
中国思想特論Ⅰ	『続高僧伝』の研究	2	齋藤 智寛	1学期	木	2	中国思想中国哲学特論Ⅰ
中国思想特論Ⅱ	明末陽明学研究	2	三浦 秀一	2学期	木	2	中国思想中国哲学特論Ⅱ
中国思想特論Ⅲ	中国思想文献の研究— 王守仁(陽明)の文献を 中心に	2	永富 青地	集中(1学期)			中国思想中国哲学特論Ⅲ
中国思想文献研究演習Ⅰ	『延平答問』精読	2	三浦 秀一	1学期	水	2	中国思想中国哲学研究 演習Ⅰ
中国思想文献研究演習Ⅱ	『周易』注釈書精読	2	齋藤 智寛	2学期	水	2	中国思想中国哲学研究 演習Ⅱ
中国思想史総合演習Ⅰ	中国思想研究上の諸問題1	2	三浦 秀一 齋藤 智寛 尾崎順一郎	1学期	金	5	中国思想中国哲学研究 演習Ⅲ
中国思想史総合演習Ⅱ	中国思想研究上の諸問題2	2	三浦 秀一 齋藤 智寛 尾崎順一郎	2学期	金	5	中国思想中国哲学研究 演習Ⅳ

科目名：中国思想特論 I / Chinese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LM14205， 科目ナンバリング：LGH-PHI610J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論 I 】

1. 授業題目：

『続高僧伝』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the Xu Gaoseng Zhuan(續高僧傳)

3. 授業の目的と概要：

唐・道宣『続高僧伝』の雑科声徳篇、感通篇、護法篇を材料に、士大夫との交流、実践仏教、三教交渉といった中国中世仏教の諸問題について考察する。『続高僧伝』の記事を『広弘明集』『集古今仏道論衡』などの道宣によるその他の編纂物や、同時代の仏教史書の記述とも比較しつつ、仏教史研究の資料とする視点と、道宣の思想や太宗朝の思潮をうかがう視点とから論じたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides explanations of various kind of topics about Buddhism in medieval China, such as the layman Buddhism, the Buddhist practice and the ideological exchange between three teachings, focusing on the some chapters of the Xu Gaoseng Zhuan(續高僧傳) such as the chapter of good voice monks, the chapter of miracle monks and the chapter of protention of Buddhism. These hagiographies will be read various points of view in this course, such as a history of medieval Chinese Buddhism or philosophical texts which remain thought of Daoxuan and Buddhists in the Taizong (太宗) period. The course also compares the Xu Gaoseng Zhuan with other Daoxuan's works such as the Guang Hongming Ji(廣弘明集), the Ji Gujin Fodao Lunheng(集古今佛道論衡) or Buddhist histories in the early Tang.

5. 学習の到達目標：

取り上げた諸資料の成り立ちと内容を理解し、こうした編纂物を利用した思想史研究の方法を了解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course helps students understand formation and contents of biographies of eminent monks. And understand a research method which using this kind of materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、導入
- 2、『続高僧伝』雑科声徳篇と士大夫の仏教理解(1)
- 3、『続高僧伝』雑科声徳篇と士大夫の仏教理解(2)
- 4、『続高僧伝』雑科声徳篇と士大夫の仏教理解(3)
- 5、『続高僧伝』雑科声徳篇と士大夫の仏教理解(4)
- 6、『続高僧伝』感通篇と初唐の仏教史書(1)
- 7、『続高僧伝』感通篇と初唐の仏教史書(2)
- 8、『続高僧伝』感通篇と初唐の仏教史書(3)
- 9『続高僧伝』感通篇と小説(1)
- 10、『続高僧伝』感通篇と小説(2)
- 11、『続高僧伝』感通篇と小説(3)
- 12、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(1)
- 13、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(2)
- 14、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(3)
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート(100%)

9. 教科書および参考書：

講義中に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

講義で取り上げた高僧伝類の原典や、紹介された参考書は積極的に読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：中国思想特論Ⅱ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LM24206， 科目ナンバリング：LGH-PHI611J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論Ⅱ】

**1. 授業題目：**

明末陽明学研究

**2. Course Title (授業題目)：**

Research on Yangming Thought in the late Ming Dynasty

**3. 授業の目的と概要：**

明朝嘉靖期に王守仁が確立し、その愛弟子たちによって知識人社会に拡がりだし陽明学を、それに続く隆慶・万暦期の人士たちは、どのように受けとめたのか。本講義では、この時期を代表する幾人かの知識人が相互に贈りあった書簡の分析などを手がかりに、この問題の解明をこころみる考察と並行して、晩明期の思想家ないし思想現象について論じた最近の論著を批判的に読む。そうした作業をとおして、当該時代の研究に新たな一歩を踏み出す上での手がかりを探りたい。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

Students will engage in classroom discussion and review recent research papers on topics relating to the pre-modern Chinese philosophy. We will read representative examples of important styles of Japanese academic writings in the field of Chinese philosophy, so as to develop students' ability of perusal.

**5. 学習の到達目標：**

陽明学関連の思想文献に示されたその独自の思考方法に慣れ、読解の手がかりをつかむ。

万暦人士が構想した思想、およびその思想史的位置について、専門的な知識を得る。

学術論文とりわけ晩明期の思想論文の探索、読解、批判に習熟する。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

Students will develop both their research skills into topics relating to the pre-modern Chinese philosophy and their critical reading skills.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

第1回：ガイダンス

第2回：鄒元標と呉達可（1）

第3回：鄒元標と呉達可（2）

第4回：晩明思想関連論文選読（1）

第5回：鄒元標と高攀龍（1）

第6回：鄒元標と高攀龍（2）

第7回：晩明思想関連論文選読（2）

第8回：鄒元標と曹于汴（1）

第9回：鄒元標と曹于汴（2）

第10回：晩明思想関連論文選読（3）

第11回：鄒元標思想の思想史的位置（1）

第12回：晩明思想関連論文選読（4）

第13回：鄒元標思想の思想史的位置（2）

第14回：晩明思想関連論文選読（5）

第15回：まとめ

**8. 成績評価方法：**

レポート（50%）

授業時間内における報告内容と討論への参加度（50%）

**9. 教科書および参考書：**

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書は授業時間内にも紹介するが、荒木見悟『明末宗教思想研究』（創文社）は必読。

The text will be handed out during the course. Reference books will be introduced during class.

**10. 授業時間外学習：**

参考書・参考文献として紹介された資料を精読する。とくにそれらが使用した原典に関しては、その文献史料にまで溯り、その内容を自分なりに読み解くことによって、論者の解釈との異同を明確にしておく。また、自身が担当する論文について、論証方法や独自性などに注意しながら、その概要をまとめ、報告の準備をおこなう。自身が担当しない論文についても、事前に読んでおく。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

特になし。

科目名：中国思想特論Ⅲ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中（1学期）、 単位数：2

担当教員：永富 青地（非常勤講師）

講義コード：LM98820、 科目ナンバリング：LGH-PHI612J、 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

中国思想文献の研究—王守仁（陽明）の文献を中心に

2. Course Title (授業題目)：

Study of the documents on Chinese Philosophy - Mainly on the documents of 王守仁

3. 授業の目的と概要：

思想史の研究は、基本的に哲学概念がいかんして成立し、そしてそれが如何に変遷していったかを扱う。しかし、哲学概念とは、常にテキストを媒介としてのみ伝播していくものなのである。テキストの伝播を抜きにして、哲学史を語ることができるだろうか。本講義においては、そのような思想文献のテキストとしての成立、伝播、そして変容の実例として、王守仁（王陽明）の語録と詩文集の明清における諸相を取り上げることとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

王守仁の著作を例として、中国近世の思想文献を扱う際の注意点と、それを利用していかに研究を進めていくかについて、学生諸君に理解を深めていただきたい。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画

- 1, ガイダンス
- 2, 言葉からテキストへ：王守仁の言葉は如何に記録されてきたのか
- 3, 『伝習録』の成立と流布（その一）
- 4, 『伝習録』の成立と流布（その二）
- 5, 『伝習録』の成立と流布（その三）
- 6, 『王文成公全書』成立以前の王守仁の詩文集（その一）
- 7, 『王文成公全書』成立以前の王守仁の詩文集（その二）
- 8, 『王文成公全書』の成立と出版
- 9, 『王文成公全書』出版以降の詩文集について
- 10, 『大学古本傍釈』について
- 11 『朱子晩年定論』について（その一）
- 12, 『朱子晩年定論』について（その二）
- 13, 江戸期における王守仁著作の研究—佐藤一斎を例として（その一）
14. 江戸期における王守仁著作の研究—佐藤一斎を例として（その二）
15. 王守仁文献研究の回顧と展望

8. 成績評価方法：

平常点及び課題による。

9. 教科書および参考書：

教科書 プリントを随時配布する。

参考書 永富青地『王守仁著作の文献学的研究』

The text will be handed out during the course. Reference books will be introduced during class.

10. 授業時間外学習：

事前に配布する講義資料について、一通り目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

履修上の注意 極端に出席が悪い場合には評価の対象としない。

科目名：中国思想文献研究演習 I / Literature on Chinese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LM13205， 科目ナンバリング：LGH-PHI615J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

『延平答問』精読

**2. Course Title (授業題目)：**

Critical Reading of "Yanping Dawen"

**3. 授業の目的と概要：**

中国近世を代表する思想家・朱熹（朱子、1130-1200）が三十代半ばに編纂した『延平答問』（正編）を精読することによって、当時の朱熹がその師匠である李延平（諱侗、延平はその号、1093-1163）からどのような思想を吸収し、みずからの思想を形成していたのかという問題の解明をこころみる。授業は演習形式でおこない、担当者は、『延平答問』が収める朱熹と李侗とによる往復書簡をわかりやすい言葉で和訳することはもとより、書簡が引く『論語』や『孟子』などの古典や北宋諸儒の語録などに関して原典にもとづいた注釈を丁寧にはどこすとともに、関連する朱熹の文章などの紹介をもおこなう。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

Students are taught how to read, appreciate and analyze texts in classical Chinese in their specific philosophical contexts. Punctuating and translating the original texts into Japanese is an integral part of the course. The purposes of this course are learning to read Chinese classics correctly, learning to examine the sources entirely, which are foundations of learning Chinese philosophy, and learning the knowledge of Chinese ancient thought.

**5. 学習の到達目標：**

壮年期における朱熹の思想について、原典に即した理解を得るとともに、その定論との比較ができる。  
宋代における道学系文献の読解方法に習熟する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Students will develop their abilities to read, appreciate and analyze texts in classical Chinese.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：ガイダンスとテキストの紹介
- 第2回：『延平答問』訳注発表（1）
- 第3回：同討論
- 第4回：『延平答問』訳注発表（2）
- 第5回：同討論
- 第6回：『延平答問』訳注発表（3）
- 第7回：同討論
- 第8回：『延平答問』訳注発表（4）
- 第9回：同討論
- 第10回：『延平答問』訳注発表（5）
- 第11回：同討論
- 第12回：『延平答問』訳注発表（6）
- 第13回：同討論
- 第14回：『延平答問』訳注発表（7）
- 第15回：同討論

**8. 成績評価方法：**

発表（60%）、受講態度（40%）

**9. 教科書および参考書：**

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書・参考文献に関しては、第1回の授業時に紹介する。

The text will be handed out during the course. Reference books will be introduced during class.

**10. 授業時間外学習：**

担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

特になし。

科目名：中国思想文献研究演習Ⅱ／ Literature on Chinese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LM23204， 科目ナンバリング：LGH-PHI616J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

『周易』注釈書精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Research: commentaries on the Book of change(周易)

3. 授業の目的と概要：

魏晋南北朝時代の『周易』注釈書を選読する。漢文読解力を向上させつつ、原典を通して中国中世に特徴的な思惟についての理解を得るのが目標である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This semester we will be reading commentaries on the Book of change(周易) which have written in Wei-Jin through Northern and Southern dynasties era. This course aims to improve the students' ability to read literally Chinese texts and understand thought of medieval China by reading original text.

5. 学習の到達目標：

思想文献の論旨を理解し、精確な訳注を作成することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students deeply understand Chinese philosophical text and make an academic translation and note by Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 『周易略例』会読1
3. 『周易略例』会読2
4. 『周易略例』会読3
5. 『周易略例』会読4
6. 『周易略例』会読5
7. 『周易略例』会読6
8. 『講周易疏論家義記』会読1
9. 『講周易疏論家義記』会読2
10. 『講周易疏論家義記』会読3
11. 『講周易疏論家義記』会読4
12. 『講周易疏論家義記』会読5
13. 『講周易疏論家義記』会読6
14. 『講周易疏論家義記』会読7
15. まとめ

8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：中国思想史総合演習 I / History of Chinese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一、齋藤 智寛、尾崎順一郎（教授、准教授、助教）

講義コード：LM15501， 科目ナンバリング：LGH-PHI613J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ】

**1. 授業題目：**

中国思想研究上の諸問題 1

**2. Course Title (授業題目)：**

Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 1

**3. 授業の目的と概要：**

前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The aim of this course is to supply students with an opportunity of delivering their own essay on any philosophical topic they choose, and thereby to help them to enhance their level of research, to develop their ability to express their thought clearly, to respond to each question accurately, and to persuade others effectively. Students are also given a chance of thinking critically about other opinions, through commenting on essays of other students.

**5. 学習の到達目標：**

みづからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

第1回：ガイダンス

第2回：発表と討議（1）

第3回：発表と討議（2）

第4回：発表と討議（3）

第5回：発表と討議（4）

第6回：発表と討議（5）

第7回：発表と討議（6）

第8回：中間まとめ

第9回：発表と討議（7）

第10回：発表と討議（8）

第11回：発表と討議（9）

第12回：発表と討議（10）

第13回：発表と討議（11）

第14回：発表と討議（12）

第15回：まとめ

**8. 成績評価方法：**

発表内容（50%）、参加態度（50%）

**9. 教科書および参考書：**

教科書はとくにない。受講者各自が事前に配布した発表資料を使用して、授業をすすめる。

**10. 授業時間外学習：**

発表者は、入念な準備作業のもと、発表予定の内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の1週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、事前に配付された資料を良く読み、予習を周到におこなう。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

特になし。

科目名：中国思想史総合演習Ⅱ／History of Chinese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一、齋藤 智寛、尾崎順一郎（教授、准教授、助教）

講義コード：LM25501， 科目ナンバリング：LGH-PHI614J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ】

**1. 授業題目：**

中国思想研究上の諸問題 2

**2. Course Title (授業題目)：**

Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 2

**3. 授業の目的と概要：**

前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The aim of this course is to supply students with an opportunity of delivering their own essay on any philosophical topic they choose, and thereby to help them to enhance their level of research, to develop their ability to express their thought clearly, to respond to each question accurately, and to persuade others effectively. Students are also given a chance of thinking critically about other opinions, through commenting on essays of other students.

**5. 学習の到達目標：**

みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

第1回：ガイダンス

第2回：発表と討議（1）

第3回：発表と討議（2）

第4回：発表と討議（3）

第5回：発表と討議（4）

第6回：発表と討議（5）

第7回：発表と討議（6）

第8回：中間まとめ

第9回：発表と討議（7）

第10回：発表と討議（8）

第11回：発表と討議（9）

第12回：発表と討議（10）

第13回：発表と討議（11）

第14回：発表と討議（12）

第15回：まとめ

**8. 成績評価方法：**

発表内容（50%）、参加態度（50%）

**9. 教科書および参考書：**

教科書はとくにない。受講者各自が事前に配布した発表資料を使用して、授業をすすめる。

**10. 授業時間外学習：**

発表者は、入念な準備作業のもと、発表予定の内容について十分に構想を練ったうえで、配付資料を丁寧に作成し、遅くとも発表の1週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、事前に配付された資料を良く読み、予習を周到におこなう。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

**12. その他：**

特になし。



